

3 施策の柱

施策の柱		具体的取り組み	
(1)	地域日本語教育推進のための体制をつくる	(1) ①	岡山市日本語教育基本方針の策定 ・2024年4月から2029年3月までの5年間の方針
		(1) ②	総合調整会議の設置
		(1) ③	総括コーディネーターの配置
		(1) ④	モデルケースとなる日本語教室の開設 ・市役所、日本語教師、地域のボランティアなどが協力して実施
		(1) ⑤	地域日本語教室を通して多文化共生社会を実現するプラットフォームをつくる ・日本語教育に関係する団体や人がつながって、取り組みを進める
(2)	日本語学習の機会を増やし、日本語教室のよりよい運営を支援する	(2) ①	空白地域での日本語教室の実施 ・外国人がたくさん住んでいるが、日本語教室が近くにない地域で教室を実施
		(2) ②	地域日本語教育コーディネーターの配置
		(2) ③	ICTを活用して日本語教育の機会を増やす ・オンラインの日本語教室などを検討
		(2) ④	日本語教育プログラムの設計
		(2) ⑤	様々な場所での日本語教育の展開 ・小中学校や夜間中学などとの連携を検討
(3)	日本語教育を担う人材の育成	(3) ①	日本語教師の育成
		(3) ②	日本語学習支援者の育成
(4)	日本語学習の場をきっかけとした、交流を通じた多文化共生の取り組みの推進	(4) ①	外国人住民への生活情報等の提供 ・日本語教室などで生活に役立つ情報も提供
		(4) ②	外国人住民の居場所づくり ・日本語学習者同士が交流できる企画を実施
		(4) ③	地域への入り口としての日本語教室 ・日本文化体験などを通して、日本語学習者と地域が交流できる企画を実施 ・「やさしい日本語」講座などを通して、日本人の多文化共生への意識啓発を促す
		(4) ④	外国人住民も活躍できる場や機会を増やす ・地域社会とのつながりを通して、外国人住民も地域の一人として活躍できるような機会をつくる

岡山市日本語教育基本方針 2024年(令和6年)4月
 (作成) 岡山市市民協働局市民協働部国際課
 TEL:086-803-1112/E-Mail:kokusaika@city.okayama.lg.jp

岡山市日本語教育基本方針
 [概要版]

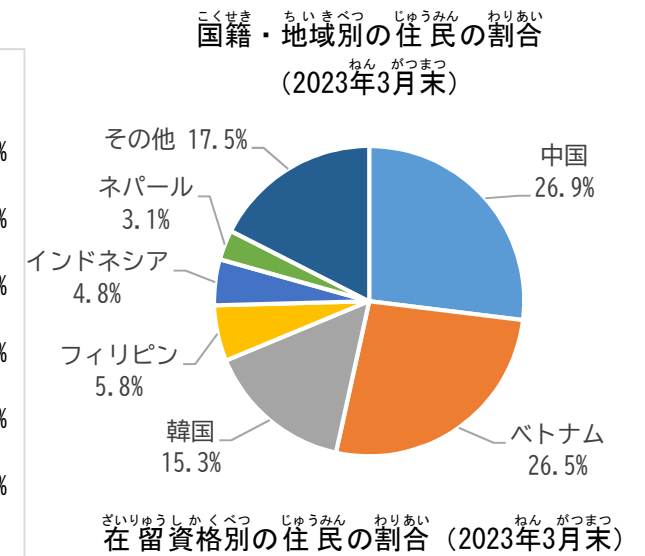
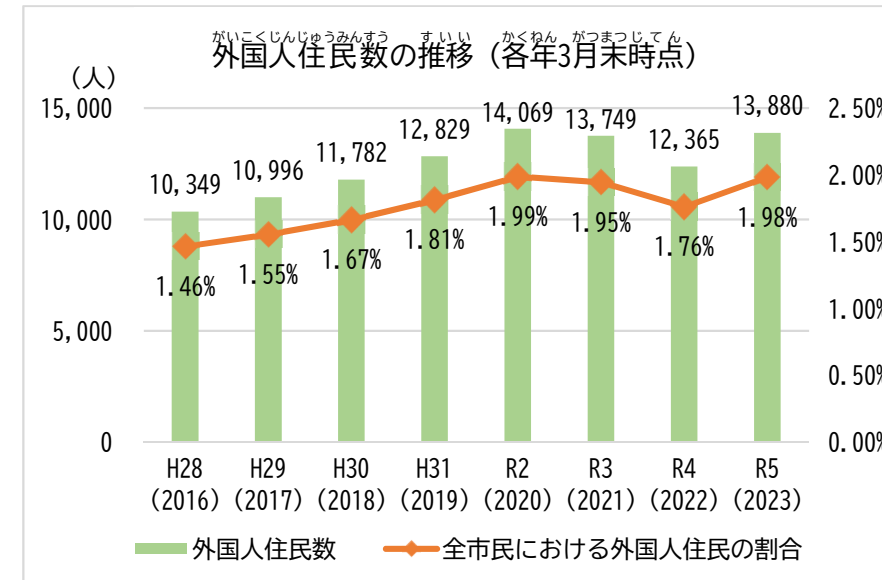
はじめに

(1) 趣旨
 日本に住む外国人の人口は、新型コロナウイルスの影響で少し減りましたが、今では働く人を中心
 に再び増えており、岡山市の外国人住民の数もこれまでで一番多くなっています。一方で、日本語がわ
 からないことから地域でいろいろなトラブルが起こることもあります。
 岡山市では、外国人住民も安心して岡山市で生活を送ることができるよう、日本語を学ぶ環境を整
 えていくために必要な基本的な考え方や具体的な取り組みについてまとめました。

(2) 基本方針の位置づけ
 この基本方針では、日本語教育に関する法律や国がまとめた方針などを参考に、すでに岡山市でまと
 めている多文化共生社会(日本人も外国人も共に支えあい共に築く社会)に関するプランの考え方を
 大事にしながら岡山市における日本語教育の取り組みを進めます。

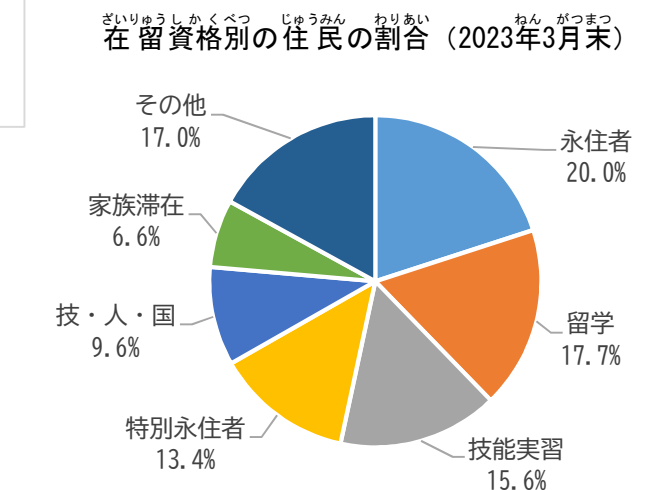
1 岡山市における地域日本語教育の現状と課題

(1) 外国人住民の状況



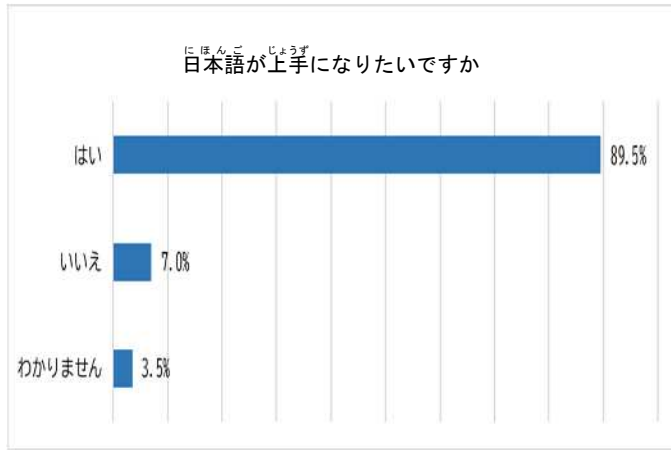
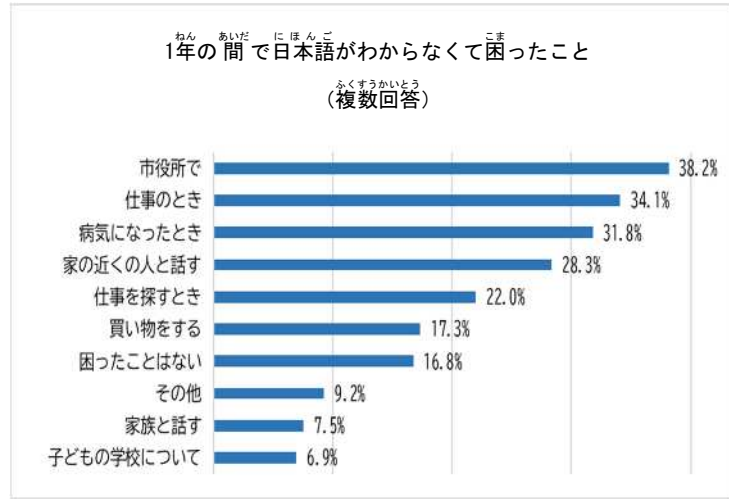
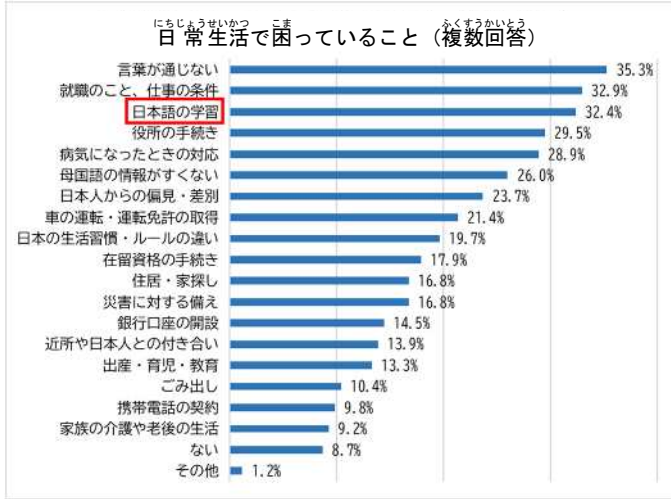
外国人住民の年齢層 (2023年10月24日現在)

21~25歳	22.74%	16~20歳	6.96%
26~30歳	18.11%	41~45歳	5.76%
31~35歳	11.68%	その他	27.55%
36~40歳	7.20%	平均年齢	33.7歳



(2) 外国人住民の日本語に関する状況

◆2023年9月に実施した外国人住民アンケートより



◆外国人が働いている会社へのヒアリング調査より

- ・日本全体で働ける人の数は減っているのに、仕事ができる人であれば、日本人でも外国人でも採用していきたいという会社は多い
- ・社内で日本語を教えている会社もあるが、教える人を探すのが大変だったり、学習時間が十分ではないので、近くに日本語教室があるといい
- ・行政や地域で行っている日本語教育のことなどの支援の情報が入ってこない

(3) 日本語教育の場の状況

◆地域の日本語教室へのアンケート調査より

- ・日本語を教える人や日本語を学びたい外国人を集めるのに困っている
- ・外国人の相談場所や支援するネットワークがあるなら情報を教えてほしい

(4) 岡山市における日本語教育の課題

◆日本語学習を希望する人について

- ・仕事や就職のためといったことから、近所の人とコミュニケーションを取りたいなど、日本語を学ぶ目的は人によって違っており、どこまで日本語ができるようになりたいかも異なる
- ・日本語教室などで日本語を学びたいと希望する人はいるが、自分の家で一人で勉強している人が多い
- ・日本語を勉強しない理由に時間がないという答えが多く、一方で、教室の数は限られていることから日本語を学習する機会が足りていない
- ・教室では、日本語学習以外に生活情報を教えてくれたり、日本人や他の外国人と交流ができるような機能も求められている

◆外国人が働いている会社について

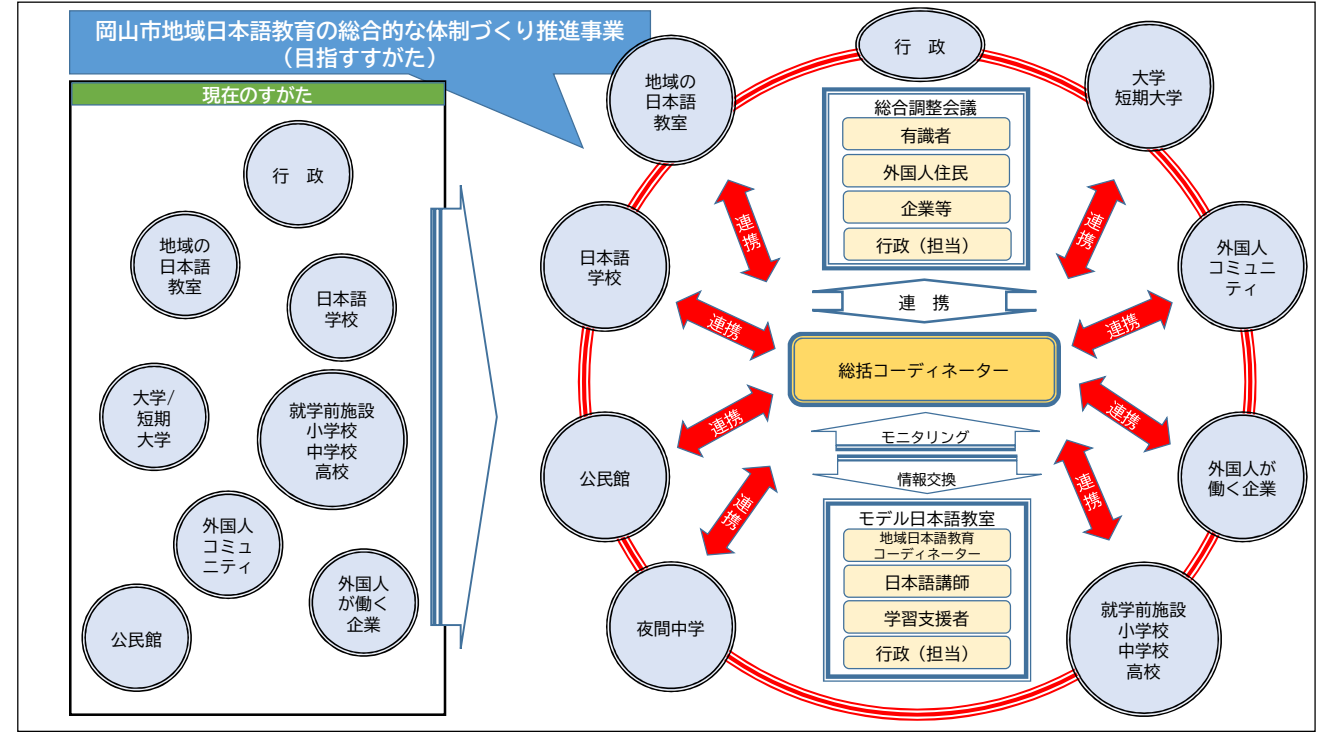
- ・会社での日本語教育の場は限られており、学習意欲のある外国人労働者をどのように日本語教育につなげていくのが課題
- ・行政や地域で行っている日本語教育などの情報が入ってこないため、リソースが十分に活かされていない
- ・職場と家の往復ばかりで、外国人労働者と地域との接点がない

◆地域の日本語教室について

- ・教える場所や教える人にとって必要なもの(駐車場など)が不足している
- ・学びたい人はいるはずなのに、生徒を集めることに苦労している

2 地域日本語教育がめざすこと

めざす地域の姿とあり方



上の図の左側にあるように、現在は日本語教育に関係する団体がそれぞれで活動している状態ですが、右側のように、総合調整会議や総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーターが運営する日本語教室を中心に、各団体と連携しながら一体となって日本語教育を推進する体制になるようめざします。

- ◇総合調整会議・・・市役所や大学、日本語学校、会社、外国人住民などが一緒になって、岡山市の日本語教育について話し合い、意見をまとめていくための会議
- ◇総括コーディネーター・・・総合調整会議など、日本語教育に関係する団体とつながって、日本語を学習しやすくするための支援を行う人
- ◇地域日本語教育コーディネーター・・・専門的知識を活かして、日本語教室などで企画や助言などを行う人

基本方針に沿って地域日本語教育を推進し、日本語を学びたい外国人住民が生活するのに必要な日本語能力が身に付けられるよう、日本語教育の機会の充実に努めて、それぞれの文化を大事にしながら誰もが暮らしやすい岡山市の実現をめざします。